

## 大会長挨拶

日本放射線影響学会第44回大会を北大阪の太陽の塔を見下ろせる地において、開催させて頂くことになりました。21世紀最初の大会として、未来に向かって大きく発展する集会になるよう、思い切った企画と転換を皆様の御協力により行って参りました。

今大会では国際化に向かって、参加、登録、抄録、宿泊など可能な限り電子化を計り、3月末より、日本放射線影響学会第44回大会ホームページを開き、会員以外の方々にも、広く本学会の活動を知って頂き、大会への参加を呼びかけております。

学術発表に関しましては、口頭発表を大ホール2つに限定し、シンポジウム・ワークショップ形式で行い、一般発表は全て示説（ポスター）形式で行うことにより、発表をより多くの参加者に見聞きして頂くように致しました。また、シンポジウム・ワークショップは、公募によりトピックスを募集致しました。更に、ワークショップは、若干のキースピーカーを除き、全て公募とし、若手学会員の積極的な参加と会員以外の方の参加を広く呼びかけました。

今大会で特に力を入れましたのは、一般発表です。ポスター形式で行うことにより、研究成果を深く討論できるように致しました。また、その成果を日本放射線影響学会機関誌 J. Radiat. Res. (安藤興一編集委員長) に推薦して頂くことに致しました。

このような改革を一度に行ったにもかかわらず、学会幹事、大会実行委員、会員各位の大変な協力を頂き、なんとか開催にまでこぎつけることができました。学会発表数も減るのではないかと心配致しましたが、320題と例年を上回る発表数になりました。皆様の御協力と熱意に深く感謝致します。

皆様に、今大会の総合シンポジウム「21世紀の放射線影響研究」の演者に招聘致しました M. Radman 教授から私への受諾の返事の一部を御紹介致します。

"I am now more interested in radiation research than over the last 10 years, mainly because of my recent interest in ....."

新世紀での放射線影響研究の益々の発展を期待致します。

2001年10月

日本放射線影響学会第44回大会  
大会長 野村 大成  
(大阪大学医学部教授)